

東京で、一世と二世が語り合った日

神保明生（小高貞三郎（25・1野砲）甥）

去る12月22日、清水廉様のお声掛かりで59期生6名と二世会6名とが話し合える理想的な会を催す事が出来ました。

その前の幹事会で私が59期生と二世との交遊をしてみたいとの希望を申しあげた所、すぐやってみようと迅速に動いて下さったのです。そして今回初めてお互いの思いを、親子も出来ない位の親密さで伝えることが出来たのです。これぞ二世会の在り方として不肖私の求める所でありました。いつもの幹事会のメンバーに加えて3名の59期生の参加と初めての女性の参加となった河内様ご一家が会を

盛り上げてくれました。

近畿の59懇親会と同じようにご夫人、女性二世が参加して下さったのは感激でした。何を話し合うのかと疑問に思われる方もいらっしゃると思います。しかし59期生の方々には当り前の事々も総て戦後生まれの二世には知らないことばかりなのです。このギャップを埋めて、陸軍士官学校を、どんなことであれ知ろうと努力しなければ、59期生の心を、魂を、引き継ぐことは出来ないと思います。お互いに腹を割って話すことが、親子でも出来ないことがなんとこれも自然に実現しました。

ご参加頂いた方々は、59期生会の清水



(二世会)

(59期生)

廉様(122歩兵) 梶川和男様(273船舶)

半田精三様(陸経8期) 霜田昭治様

(42歩兵) 北俊男様(11歩兵) 牧内節男

様(231歩兵)の皆様です。一方二世会

として名古屋から参加頂いた故河内達男

様(62航爆) 夫人の河内かよ子様と御

長男の河内博之様、ご長女の河内由美子

様、大阪からいらした故久保田勲様

(43歩兵)のご長男久保田恵一様、東久

留米市から前澤功様(292工兵)のご長

男前澤潤様と司会を故小高貞三郎(25

野砲)の甥の私が一世の皆様と二世会と

六名づつ相対して夫々順番に思いを述べ

合ったのでした。

興味深いのは59期生同士でも初めて聴

いたという各自の人生の

お話があることです。59

期生のお話を伺うまで

は、私は戦争の真つ最中

に陸士を志したのは相当

の殉國の覚悟があったに

違いないと、決め込んで

いたのですが、その時代

の流れだと、戦争は当り

前のことだった、という

お話は貴重なヒントでし

た。やはりその時代を知

らない者には感じとるこ

とが出来ないことが解り

ました。立派な先生や区

隊長から大きな影響を受

けていること、軍人の親族から当然に陸

士を志したのことも伺いました。

反面、どうして戦争しなければならな

いかと、何故融和出来ないのか疑問に

思っていたという話もありました。陸士

陸経は狭き門であり、身体検査で半分は

落される。そのため視力検査表を全部暗

記したという涙ぐましい努力もあり、ま

た他の国民が軍需工場に動員されている

時にしっかりと勉強することが出来た有難

さがあったこと、故郷の華となつて親孝

行出来たことなど、大東亜戦争は輸送の

戦いだと考えて兵科を輜重希望としたら

航空に変えられたこと、純粹な時であり

人格形成が出来楽しかったこと、小隊長

になった晩には無様な死に方は出来ない

と覚悟していたこと、終戦を迎えて同期

は泣いていたが自分はホツとしたこと、

区隊長から同期の親睦を命ぜられて以来

なんと70年余も同期の親睦を図り続けて

いること、二世に問われれば何でも話を

する用意があることなどを伺い、興味

津々でした。

一方、二世としては父から陸士の誇り

を耳にタコが出来程聴いてきたこと、

意外と娘の方が聴いてくれること、大変

厳しい父親であったが尊敬の念は持ち続

けたこと、そうです、今こそ59期生の

皆さんは優しいおじさんですが、50代に

お会いしたら恐かつたのではないかと

皆様の毅然とした横顔を拝見して思うの

であります。たった一回負けただけで、

余りに全てが否定され過ぎていたのでは

ないか? 何故米国のように退役軍人会

が無いのか? (偕行社はありますが)と

いう疑問を聴いて成程と思いました。命

を懸けて国を守る軍人に、自衛隊員に敬

意を表さなければなりません。陸士を顕

彰する二世会を望んでいたという、本当

に心強い二世会の意見を聞いて大変嬉し

く思いました。

本当は西洋の植民地主義との闘いで

あったのに、日本が侵略戦争をしたよう

に世論を誘導されては陸軍士官学校の栄

誉が穢されてしまいます。大半の二世は

まだ現役で非常に忙しく父の志を振り返

る暇がありません。私のように退職後に

初めて父を、叔父を、想うのでは遅すぎ

るのです。今回大変な忙しさの中お集ま

り下さった方々の志は本物で貴重です。

何とかして二世の方々、今の世界情

勢も昔と変わることなく覇権国家との闘

いであって、お父様がその先鋒にあつた

のどと気が付いて二世の輪が広がること

を念じて止みません。1月10日の偕行社

賀詞交換会に合唱団で参加し、陸士57期

の中茶さんが作詞した「偕行百年」を歌

いました。その2番は、正しく59期生会

の歌でもあると思います、

夏草に勅(しん)かしこみ

丈夫が矛をおさめて

その生命火(は)むらと燃やし

この腕^{かひな}砕けとばかり
興し建つ祖国に栄えあれ

59期生会の皆様が自身の再興にそして、日本の再興に努力して今の繁栄と平和を築いて下さったのだと感謝に堪えません。

東京二世会参加報告

久保田恵一（勲4-3歩兵長男）

昨年12月22日偕行社へ3度目の訪問をしました。今回も神保氏に案内をいただき59期生二世会準備委員会への参加でした。59期生の方6名、ご夫人1名、二世5名の参加で、およそ2時間の間でしたが59期の方個人の略歴など聞かせていただき有意義な時間となりました。

近畿でもそうなのですが、陸士に入校された経緯や陸士での体験談もさることながら、戦後努力されて大学に入り、医師、商社マン、記者などとなり、各方面で活躍され日本の発展に寄与されてきたことに大いに感銘を受けます。

戦後、改めて大学に進学されたことは、昭和49年に進学した自分自身とは、その覚悟に大きな差を感じます。また私より少し年長で学生運動に走った一部の層とは雲泥の差です。

厚労省によると戦後1947年の男子の平均寿命は約50歳、1960年は65歳、2015年は81歳となっています。戦争や災害で数字は左右しますが、概ねこの数字は正しいのだと思われれます。

論語に「四十にして惑わず」とありますが、寿命の延びを考えると現在の不惑は70歳、「古希」は95歳ぐらいにあたるのではと考えています。私自身、61歳を超えた今でも日々の反省と後悔で未だ迷つてばかりです。

私は今、流通業関係の管理会社に勤務しています。ほぼ毎日各地のショッピングセンターやスーパーの事件事故報告に目を通しますが、特に最近70歳超えるぐらいの高齢者の万引きや不法占拠、迷惑行為が目立ちます。沖縄へ行つて騒ぐ高齢者などもそうですが、大正・昭和1桁生まれの人と比べてはるかに視野が狭い人が多いのではと感じます。

以前は「お年寄り」というと周囲から敬われる存在であつたと思うのですが、最近は疎まれる人が増えてきたのではないのでしょうか。

日本の未来や国民の安全安心より自分の自分のことしか考えられない、また結果的に中国に利することになる偏狭な反日思想に染まつた数%の人が、時間に余裕が出来てきたからではないかと勝手に思っています。

59期の方を含め、戦後日本を発展させてきたもつと高齢の方々には、いつまでも矍鑠として次の世代に目を光らせて、ご意見番になっていただきたいと思うこのころです。